

1. 景気動向

D I 値（好転と回答した数から悪化と回答した数を引いた値）は、マイナスとなったが、全業種においてマイナス数値は減少しており、前回調査時と比べてわずかながらも好転の兆しが見られる。特に製造業は、業況が比較的安定してきている。一方で、依然として小売業は厳しい状況が続いており、本格的な景気回復の兆しはもうしばらく先になりそうである。

		建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
		4~6月	7~9月	4~6月	7~9月	4~6月	7~9月	4~6月	7~9月	4~6月	7~9月
		今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し
売上高		29	19	2	4	8	16	55	42	41	13
採算		38	33	25	8	42	42	46	49	32	27
資金繰り		14	14	10	0	8	0	35	39	4	9
業況		30	35	15	7	8	17	42	36	27	24
経営上の 当面する 問題点	1位	民間需要の停滞		製品(加工)単価の低下・上昇難		仕入単価の上昇		需要の停滞		材料等仕入単価の上昇	
	2位	材料価格の上昇		需要の停滞		販売単価の低下・上昇難		購買力の他地域への流出		利用者ニーズの変化への対応	
	3位	請負単価の低下・上昇難		原材料価格の上昇		需要の停滞		消費者ニーズの変化への対応		需要の停滞	
業種別 コメント		<p>例年であれば、季節的要因からも前回調査時よりも明るい状況が見られるべきところであるが、依然として業況はマイナス30ポイントと低迷している。特に、売上高と採算面で厳しいと回答している割合が多く、需要の停滞及び材料価格の上昇が経営を大きく圧迫しているものと考えられる。</p> <p>来期の見通しも厳しいと感じている企業割合が多く、今しばらくこの状況が続くものが見られる。</p>		<p>他業種に比べ、マイナスポイントで推移はしているが比較的安定したD I 値になってきている。製品(加工単価)の低下・上昇難により採算面で厳しい状況が窺えるが、売上げは少しずつ伸びてきている。また、来期も順調に推移するとの回答割合が高く、久しぶりに好転に転じる見通しが見えてきている。設備投資も生産設備を中心に増えてきているが、業種、企業間の格差が依然として大きい状況である。</p>		<p>業況は昨季とほぼ変わらず低い位置での横ばい状態が続いている。但し採算に関しては若干のマイナス傾向であり、経営上の問題点の仕入単価の上昇からも推測するに、仕入価格面での業者間競争はいまだに激しいようである。</p> <p>また昨今の流通事情の向上、IT技術の発達などの経営環境に強く影響を受ける業態であるため、業種転換、販路、商品の見直し、他社との差別化、自社サービスの充実など経営革新に取り組んでいかなければ、将来の企業成長は難しいと思われる。</p>		<p>売上高、採算、資金繰り、業況などのD I 値は、前期に比較しても変動が無く、未だ厳しい状況が伺える。衣替えの季節を迎えて、買い替えの期待もあったが、不安定な気候の変化と原油高の影響から、消費マインドの冷え込みが感じられる。</p> <p>来期見通しでも、中元商戦を迎える中でも冷夏や不安定な経済環境から、改善への期待は見られず、厳しい状況が続くと判断される。個店における商品の充実と併せて消費者ニーズに合わせた取り組みが必要である。</p>		<p>前回調査のとおり、資金繰りは前期から改善されているものの、売上高、採算、業況においてD I 値は悪化しており、ゴールデンウィークにおける個人消費もそれほど伸びず、原油高からの材料の高騰を懸念する声が多い。</p> <p>しかし、お盆を迎えるの帰省客や季節的要因から、来期見通しへの期待感から改善への動きがみられる。</p> <p>新商品・新サービスの研究により、リピーターとしてのファン作りの取り組みが必要である。</p>	

*表中の天気図はD・Iを以下のように分類したものです。

とくに好調 (50 DI)	好調 (25 DI<50)	まあまあ (0 DI<25)	不振 (25 DI<0)	きわめて不振 (DI<25)

当所では分析にあたってD・I（好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値）を採用しました。